

The mETROREPORT

NEW YORK · INDIA · KENYA · PHILIPPINES · ROMANIA · SOUTH AFRICA · PERU · COLOMBIA · HAITI

メトロ・ワールド・チャイルド
ニュースレター

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン 東京都中央区銀座 5-14-6 橋ビルⅡ7F TFC 内



メトロのかかわる
数十万人の子どもたちには
クリスマスなんて
ありません

2022年11月号

オペレーション・ホリデー・ホープ

OHH—クリスマスの集会に来た子ども全員にプレゼントを！

お申し込み締め切り 11月25日(金)

ケニア学用品支援 締め切り 11月27日(日)

今月の引き落とし日！

11月16日(水)です。ご確認ください！

今月号の目次

P2…各国の子どもの現状／OHH の
ご案内

P3…ケニアの新年度が始まります

P4-5…ウクライナのクリスマス

P6…日本事務所からのお知らせ

【＊お願い】 ご住所を変更された方は、日本事務所までご連絡ください。(自動転送されません) 連絡先は最終ページでご確認ください。

どうしてクリスマスが来ないの？

この子たちの状況をお聞きください…

マルクスはいつも笑顔で日曜学校を楽しんでいました。しかし、昨年のオペレーション・ホリデー・ホープの期間中、彼の心はとても重かったのです。というのも、火事で家を失い、数週間前から母親とともにホームレス用のシェルターで生活していたからです。その上、母親は癌の診断を受けて化学療法を開始したばかりでした。どんな子どもにとっても耐え難い状況です。クリスマスを祝う希望など持てるはずがありません。昨年マルクスがもらったのは、メトロの教会学校に来て受け取ったクリスマスプレゼントが最初で最後でした。

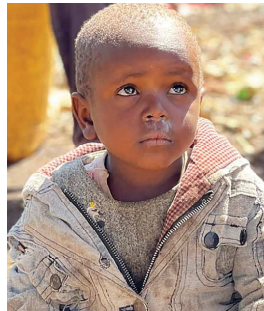
しかし、マルクスはそれ以上に大きなものを受け取りました。あなたのような友のおかげです。彼は希望を受け取ったのです。クリスマスのメッセージを聴いて、神様が自分を愛して、自分のために、ひとり子イエス様を与えてくださったことを知ったのでした…それこそがクリスマスの希望です。

オペレーション・ホリデー・ホープが重要な理由はそこにあります。この働きなくして、悲惨な境遇にある世界中の子どもたちにクリスマスはやってきません。



フィリピンに住む13歳のマリアは、極貧家庭に生まれました。耐え難い悪臭が鼻をつくゴミ捨て場や墓地で暮らす他の子どもたち同様、マリアもクリスマスプレゼントのすることなど頭にありません。こういう子が考えているのは「ママはまた、家族のお米を買うお金のために、私を近所の人に売渡すのかな」。あるいは、「弟

の粉ミルクは買えるのかな。泣き止まないのは困るけど、泣き声もしなくなったら、それは、もっと困ったことだし」というようなことです。



メトロ・ケニアは、ナクルや他の地域で何千人もの子どもたちを支援していますが、この子どもたちにとっては、毎日がサバイバルです。丸一日何も食べないことは珍しくありません。また、南アフリカの子どもたちにとっては、言うに堪えないほどの暴力と死は当たり前の日常です。

貧困の連鎖の中で育つルーマニアの子どもたちのことを想像してみてください。近親相姦が生活の一部だったり、両親が現実逃避のために薬物中毒になっていたり、生まれた子どもに名前を付けるのを忘れてしまう人さえいます。厳しい寒さと厚い泥に覆われた地面が続く村で、満足な衣服もないことはさらに耐え難いことです。

メトロが活動するあらゆる国から、悲痛な子どもたちの状況が聞こえてきます。2年間のコロナ禍も、昨今のインフレも不況も、問題にならない深刻さです。

でも、ここからがあなたの出番です。オペレーション・ホリデー・ホープにご協力いただければ、目に見える形で子どもたちに贈り物をするようになります。そして、子どもたちは自分を気かけ愛してくれる存在があることを知ります。この贈り物は、私たちが子どもたちの心に希望の種を植え、育てるための扉を開きます。



あなたにもできることがあります クリスマスを贈りましょう！

今年もOHH(オペレーション・ホリデー・ホープ)へのご支援をお願いします…
このご支援によって、クリスマスの集会に参加したすべての子ども(スポンサーの付いていない子どもたちも)がプレゼントをもらうことができます。

- ・ ニューヨークの子どもたちには、ラッピングされたギフトやお菓子などが入った靴下が贈られます。
- ・ フィリピンの子供たちは、おもちゃと、皆が必要な食品詰合せでお祝いします。
- ・ アフリカの子供たちは、食べ物とジュースという特別な贈り物を受け取ります。
- ・ ルーマニアの子供たちには、温かいブーツと靴下、マフラーが贈られます。
これはドイツとスイスの素晴らしい友人たちが愛を込めて編んだものです。
- ・ インドの子供たちにはお祝い用の特別なプレゼントが贈られます。

しかし、最も大きいのは、あなたの贈り物によって子どもたちが「神様に見守られている」と思い出せるということです。その神様は、自分を愛し、すべての現実を超える存在であり、悲しみに泣く声を聞いてくれ、祈りに応えてくれるお方であるということを知ります。

OHHは、1件1,500円 11月25日〆切です [こちらから⇒](#)



ケニアの新年度が始まります！

学校に行く準備ができるようにご支援をお願いします。

1月から、ケニアの新年度が始まります。

子どもたちが喜んで学校に行けるように、学用品などのご支援をお願いします。

ケニアでは、皆様のご支援のおかげで、スポンサーのいる子どもは学校で給食を食べることができています。それは、子どもにとっても家族にとっても本当に大きな恵みです。心から感謝します。

ケニアの失業率は日本では想像できないほど高く、公表されている失業率と現状は大きくかけ離れています。メトロが活動しているナクル地域では、半分以上の人々は定職に就いておらず、いったいどうやってこの国は成り立っているのだろうかと思わされるほどです。



貧富の格差も大きく、人口の0.1%の人々が、99.9%の人々よりも多くの財産を所有しています。国土のほとんどが国有地で、皆、土地も持っていないので、食物を栽培して自給自足の生活もできません。その貧しさは想像を絶しています。

ケニアには、公用語のスワヒリ語や英語以外にも複数の現地の言葉があります。日常的には現地の言葉で会話をするので、**学校に通わなければ、英語が身につかず、読み書き計算もできません。**結局よい職に就くこともできず、親と同じ、毎日の食べ物を手に入れることしか考えられない極貧の一生を歩むことになり、食べるために罪を犯したり、麻薬やアルコールの中毒になって現実逃避したりということになってしまうケースが非常に多いのです。

スラムの親は、学ぶことの重要性を理解していないことも多く、その日を何とか生きることと頭がいっぱいで、学校のことまで考えられず、そのための準備もできていません。そもそも、計画的に備えるという概念自体がない人もいます。

ケニアでは、制服を着用することが義務づけられているので、それも子どもを学校に行かせられない大きな理由になります。毎年成長する子どもに合う制服を準備したり、必要な学用品を準備する余裕がないのです。

サイズの合わないぼろぼろの制服で通学することは、子どもにとって悲しいことです。そして、学用品がなければしっかり勉強することもできません。**皆様のご支援によって、新年度から喜んで学校に行ける状況を作っていただければ感謝です。**

現在、メトロ・ケニアの責任ある働きを担っている男性の中にも、ストリートチルドレンでギャングの仲間だったスタッフたちがいます。万引きをしたり悪事を重ね、接着剤入りの袋を吸引して、寒さや空腹、喧嘩や暴行でできた身体中の傷の痛みを紛らわす日々でした。

その子が、ある日の伝道集会で「神様があなたの本当のお父さんです！神様があなたを養ってくれます！あなたを愛しています！」と言うメッセージを聞いて救われたのです。その時、ある教会の牧師が里親になってくれて、初めて学校に通うことができました。今はメトロのスタッフとして数千人の子どもたちに救いと希望のメッセージを毎週届けています。ご支援は、このような**奇跡を起こすチャンスです。**



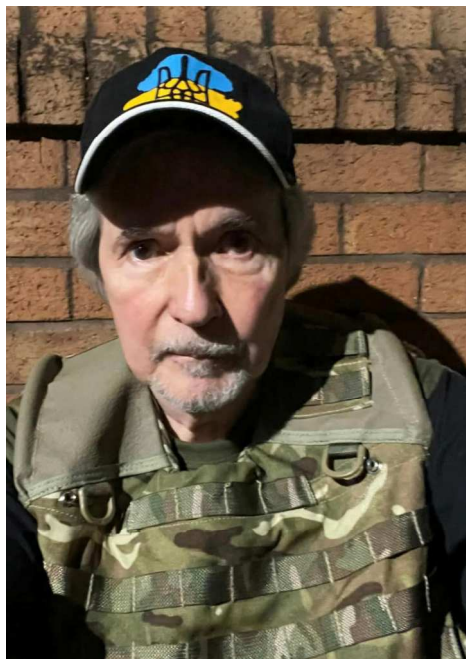
ケニア学用品支援 お申し込みはこちら⇒
または同封の申込書をご覧ください
締め切りは11月27日(日)



*プライバシー保護のため、記事の内容と写真は無関係なものを使用しています。

Christmas for Ukraine

ウクライナにクリスマスを！



戦争という混沌と混乱の中に、どうすればキリストを届けることができるだろうか。そのために、私はここに座って、クリスマスのキリストを混沌の中にどうやって届けるか考えているのです。数週間前からのウクライナでの活動の後、英国での講演活動を終えて、今、あと数時間でブルックリンに帰り着くところです。

今、飛行機の後方では、人々が叫んでいるし、トイレのひとつは壊れて使えないし、食べる物はないし、私は私で鎖骨骨折の痛みで、ウクライナで滞在していた兵舎の後ろに停めてあったトラックをロシア人が爆破した時のことを脳裏に思い浮かべています。

でも、それが現実なのです。

あの爆発があってから、兵士やその家族の相談に乗っていて、またしてもウクライナの現状からは離れることのできない何かが自分の身に起こったと感じました。

最初の2回のウクライナ行きが私に影響を与えたことは分かっています。この3回目の旅も同じように私に影響を与えるでしょうが、それは以前とは違う気がしています。Facebook で私をフォローしている方なら、この3回目の滞在で何が起こったかはご存知でしょう。

しかし、文字通り世界中の人々から信じられないほどのコメントや反響がくるとは思

っていませんでした。何千人もの方々が、私がウクライナにいることを知り、私の発信する情報を見てくれていたのです。皆が、助けたいと思っていることは明らかです。

状況は分かっても、何をすればいいのかわからない。でも、今の私の気持ちと同じように、**何かしなければなりません**。それで、ずっと祈って考え、ウクライナの地に残っている人々と連絡を取り、その気持ちに応える方法を考え続けていました。

緊急だということが頭から離れません。私が個人的に経験したことだけでなく、ウクライナの兵士たちに起こったことを繰り返し考えています。多くの兵士がロシア兵によって男性器を切断され、去勢されたのです。文字にすることもできないようなことです。私がどんなにがんばっても、そこで起こったことすべてを理解してもらうことは不可能です。

だから、何とかして今年のクリスマスにキリストを届ける方法を考えています。ずっと続けてきたオペレーション・ホリデー・ホープが今、本格的に始まっていることは、ほとんどの方がご存知だと思います。今回もブルックリンの日曜学校を援助するために、世界中から支援が寄せられています。この日曜学校のクリスマスを開催するために、アメリカ各地からプレゼント包装のボランティアのためにN.Y.にやってくる人たちがいるのです。ニューヨークの街中に住む子どもたちにキリストを伝えて30年。ほとんどの子どもたちにとって、日曜学校でもらうクリスマスプレゼントが唯一のクリスマスです。それだけなのです。ですから、この働きをやめることはできません。さらに、この2年間のコロナ禍を経てもなお、私たちはニューヨーク市から委託された働きも続けていますし、各国での日曜学校の開催場所は増え続けているので、世界中のメトロは、大変なクリスマスを迎えています。

しかし、ウクライナで戦争が始まって243日が経過した今、このクリスマスシーズンの真ただ中に、混沌と危機にどう対処するか考えなければなりません。

そこで、私たちはある計画を実行しようとしています。それを私は、**「ウクライナのためのクリスマス」** (Christmas for Ukraine)と呼んでいます。

[次ページへつづく](#)





戦争が始まって以来、私たちが何をしてきたかご存知でしょう。検問所にいる青年兵たちに2,000着以上の防弾チョッキを提供し、孤児院にいる子どもたちをウクライナから移住させて世話してくれる人々にお渡しし、前線から女性や子どもたちを避難させるためのバスを用意しました。

ロシア人に集団レイプされた少女たちを助け、それを見せられた母親の相談に乗り、今日までずっと、ブダペストからウクライナに食料トラックを走らせて配給も続けています。

そして今回、私はこの残虐行為の真ただ中に生きる兵士たちの相談に乗り、話をしていました。この3回目の旅の4日間で、32人の兵士とその家族をイエス・キリストに導くことができたのは光栄でした。

助けやカウンセリング、そして、希望を必要としていた兵士は、他にもたくさんいたのですが、残念ながら、私がいたイズムの兵舎にたどり着くことはありませんでした。彼らは兵舎に戻る前に自殺してしまっていたのです。

ひとりの兵士と話をしました。3人のロシア兵が彼を縛り上げ、ボルトカッターを取り上げて、去勢したのです。私が見たこと、聞いたことのどれも、皆さんが理解するすべはありません。

主は、私の経験知を超える知恵を与えてくださり、キリストの愛が、私にできる限りのことをするように促したのです。私はそこにいる間、全力を尽くしました。本当にハードな時間でした。しかし、私も辛いクリスマスを知らないわけではありません。

幼い頃、クリスマスがどんなに辛かったか、よく覚えています。食べ物もプレゼントもない、ただの一日でした。クリスマスの朝、毛布で頭を覆っていたのを覚えています。それは、私のめちゃくちゃな世界の、めちゃくちゃな日の始まりであり、このめちゃくちゃな家族に次は何が起こるのか？と思っていたからです。

だから、戦争が始まって以来つながってきた子どもたち、孤児たち、女性たち、兵士たち、そして、家族たちにクリスマスを届けることにしたのです。自分は今もう男じゃない、家族を養えない、と感じている彼らに、希望だけでなく、ある種の安定と平常心を届けたいのです。

ウクライナの兵舎の病院で、木片を持って兵士のお父さんにこう言った少女のように。「パパ見て！十字架みたい。イエス様がいらっしゃる。私たちを助けてくれるんだよ。イエス様はパパを助けてくれるよ。イエス様はいつもそうだから」。クリスマスに最善を尽くし、彼らの混沌の中にイエス様を届けようと思っています。

これはシンプルで、実行可能な計画です。クリスマスのメッセージと共に、クリスマスプレゼントを渡します。子どもへのプレゼントは1つ1,200円ほど、家族への食料品セットは1つ4,000円ほどです。

できるだけ多くの子どもたちや家族に届けたいと思います。タイミングよく渡すためには、12月1日までにこの援助を現地に届ける必要があります。

イエス様の名において、あなたをご支援くださることを願っています。なぜなら、それはいつも彼の名前によるものだからです…。今までもそうでした。これからもずっと。

メリークリスマス

戦地より！

ビル・ウィルソン

ウクライナのクリスマスのお申し込みは、こちらから⇒
締め切りは、11月27日(日)です
お電話、FAX、メールでもお申し込みいただけます



<https://metroworldchild.jp/ukr/>



日本事務所からの重要なお知らせとお願い

！ プレゼントの価格に注意！

急激で極端な円安が続いており、やむを得ずプレゼントの金額を毎月設定し直しています。皆様のご負担が増えないようにと願っていますが、日本事務所で差額を負担できない状況になっていますので、ご了承ください。円の状況に応じて価格を変更させていただいています。

皆様には大変ご負担をおかけして申し訳ございません。どうぞ以前の状況に戻るようお祈りください。円が大幅に回復しましたら、また価格を下げさせていただきます。

円安に加え、世界では日本とは比較にならないほどの大幅な物価高も続いておりますので、どうぞご了承ください。

違いを生み出す月曜日！

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。新規スポンサーを常時募集していますので、よろしく願いいたします。コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、ケニアでは、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。現地を訪問した若いスタッフは、その悲惨さを目撃して、「違いを生み出す月曜日」のキャンペーンを発案。一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと努力しています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介&申込サイト⇒

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



！ 日本事務所移転・電話変更

9月の東京福音センターの移転に伴い、メトロの日本事務所も移転しました。新しい所在地は以下の通りです。

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-14-6
橋ビルII 7階 TFC内

電話番号：03-6264-7370

事務所に常駐するスタッフが、まだおりませんので、電話や郵便物は今まで通り、全て松山福音センターに転送されます。

すでに発送されている郵便物も、自動転送されますのでご安心ください。郵便局以外の発送物(宅配など)は、転送されませんのでご注意ください。訪問くださる場合は、事前にご連絡をいただきますようお願いいたします。

日本事務所よりごあいさつ！

朝晩は、冷え込むことも多くなってまいりましたが、日中は良い天気の日も多く、まだまだ秋を楽しめる時期です。皆様が主に守られて祝福された晩秋の日々を満喫できますようにと願います。

メトロでは、本格的にクリスマス準備に入りました。対象となる子どもが、各国とも数万人もいますし、今年は緊急で、ウクライナでもクリスマス集会を行ってプレゼントを配ることにしましたので、世界中で30万個を大幅に超えるプレゼントを準備しなくてはなりません。ボランティアを募集してスタッフ総出で準備しても大変ハードな毎日です。どうぞ、教会学校のクリスマス集会に来たすべての子どもに、そして、苦しみの中にあるウクライナの人々にプレゼントを準備できるように、さらに、スタッフの健康が守られるようにお祈りください。

皆様の上にも主からの格別な祝福を祈ります。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんだい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座5-14-6
橋ビルII 7階 TFC内

電話 03-6264-7370

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>

ここに移転



すべてのお振り込みは、下記宛をお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン